



世界風俗往來

全

世界風俗往來



明治五年壬申夏新鑄

世界風俗往來

井上氏藏版



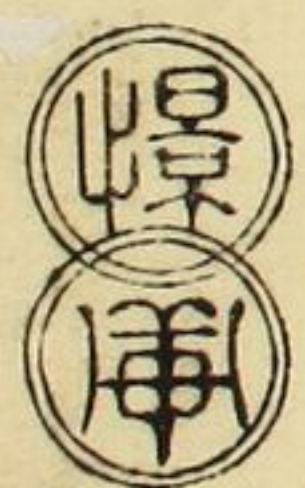
序

文運推開。人爭磨智識於
世界。當此時譯書之務急
矣。而從前其書。或繁或偏
之。一覽以了。盡大要者。童

蒙之士憾焉。今此書略括
全世界地理風俗政體。收
之一小冊子中。無所謂繁
與偏之患。而便於童蒙者
非耶。且書字足以為臨池

者之模範。則用亦多矣。若
夫撰著之體裁。固不暇擇。
此蓋作者之意也。
明治壬申春三月

薇陽陳人撰



荆邨處士歎書

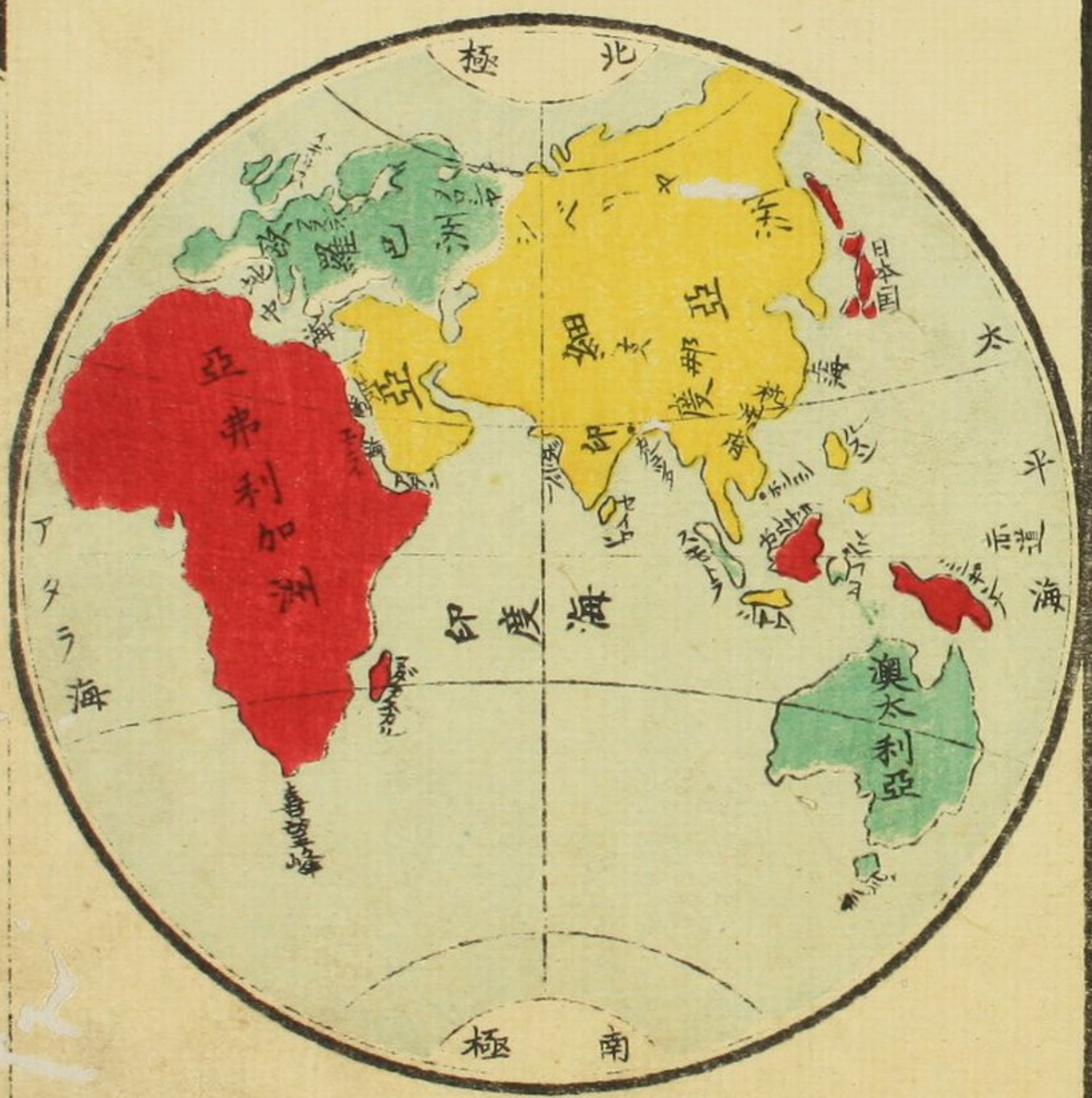
明治壬申春日

一擊手九萬

荆邨逸士歎題



東 半 球



世界風俗往來

世界風俗往來

五 人 種 圖
歐羅巴人種
亞細亞人種

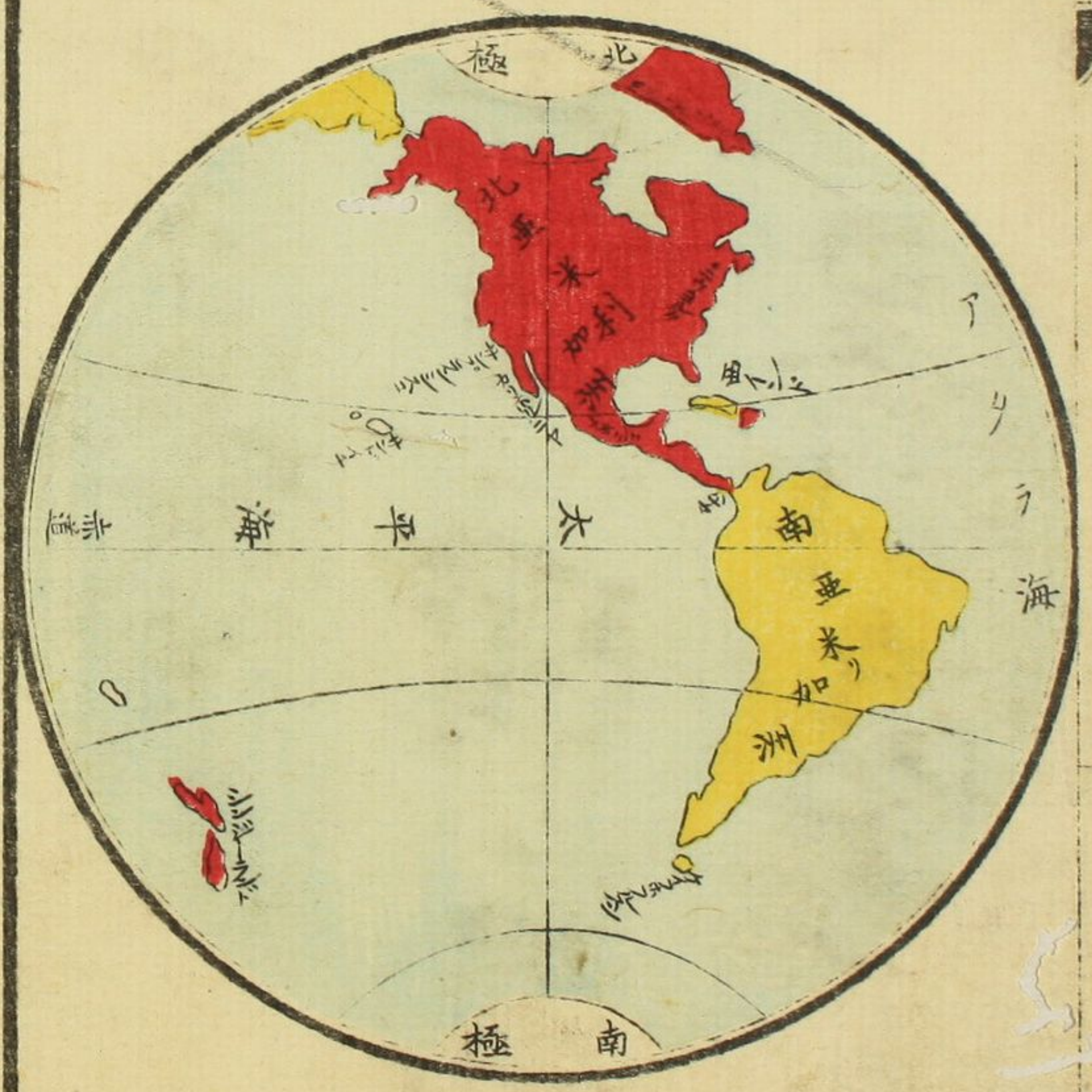


メライ人種

アメリカ人種

アフリカ人種

西半球



世界風俗往來

夫世界國々風

俗乃異同政事

の得失を尋ね
るに僅乃又を
難し先其大

畧哉左よ述す
地球乃其面
三千二百零七

七段 風俗 作行 卷

萬九千四百方里

餘海陸各部

分ち海は陸の

三倍程也其地

を五海分ち互

細亞互非利加

世界風俗生来

三

歐羅巴中南こえうろつちゅうなん小せう

亞米利加填地あめりかりかてんち

利互奈李亞細らいつなれあせう

五〇二一ごにじゅういち百九十三

萬八千五百まんはっせんごひゃく方ほう

里餘我りよが

世風俗性

日本は其東

邊獨立せる一の

島國をあり亞

非利加冬百九
十七萬二千
方里餘亞米

世風俗性

利和ハ二百四十

三萬四千七百

八十方里餘歐

羅巴ハ六十二
萬九千八百八
十方里餘奧

地理

地利西長六十
七百萬方里餘
土の量是乃五

大洲中諸國
一億五千萬
一億七千萬

地理

七

六洲中天下度の

異同考之其差

より生産乃

多ク人口之
寛あもハ勿レ備
土をまづ互細

廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

無^ム人^{じん}口^{こう}六^{ろく}億^{いっ}五^ご
千^{せん}二^に百^{ひゃく}萬^{まん}餘^よ五^ご
非^ひ利^り加^か付^け七^{しち}千^{せん}

茶^{ちや}餘^よ歐^{おう}羅^ら巴^ぱ
二^に億^{いっ}五^ご千^{せん}五^ご百^{ひゃく}
万^{まん}餘^よ五^ご千^{せん}五^ご百^{ひゃく}

世界風俗生業

とちま子とちま八百万ひやうまん餘よ

奧地利亞あうとりあ二子にこ

百葉餘也ひやうまん地氣ちき

殊ことふれを物交ものかりり

人乃種ひと類しゆも五ご

種しゆよ分ぶんは白色はくしき

黄色くわん 黑色こく 棕色せう

色いろ 洞色どう 以い 有あ

其その 資し 質しつ 性せい 矣い 凡ふん

言げん 者ご 文ぶん 字じ 亦また 有あ 也や

様よう 々々 々々 々々 八はち 百ひゃく 餘よ

種しゆ 七しち 十じゆ 是し 何なに 者もの 一いち

語ごの他た邦はう」

及たぶぶ理ことわりあり且かつ

又また諸しよ宗しゆの教を教しふ

許あしまたたあらるる耶や

蘇そ教きやうをを次つぎ羅ら

已いにに遍あまねくく其その中ちゆう

新故乃其流
あたらしきふるまひ
ふたまたま

かきたるる
こ
い

猶大國より行かれ
いづ
でや
こ
ねこふ

一程の宗
い
し
い

心を大教と
い
い
い
い

今も其の生
い
い
い
い



巴。亞。米。利。加。に

信。宗。子。と。る。と。の

あ。ら。び。の。し

世界風俗生来

回。教。を。興。起。す。
印。度。及。近。の。諸。
島。を。行。く。れ。ま。す。

世界風俗生来

七
月
廿
八
日
申
時
辰
刻
行
之

大
神
乃
神
哉

九
乃
宗
河
里

三
印
度
支
那

互
非
利
加
西
米
利
加
の
内
地
地
塊
地
利
加
西
米
の
法

廿
八
日
申
時
辰
刻
行
之

七月 辰巳 行

高たか未いまとと關ひらけぎ

地ち行たこははたた

此この教たのの取と性せい

あ

証たん人じん情じやうのの遠と
害がいのの事こととと又また
其その外ちがのの釋しやく教けう

世良風谷主来

十七

七
月
麻
作
卷
之
七

と
く
幸
福
を
求
む
又
死
後
亦
冥
福
を
希
ひ
常

に
高
妙
乃
理
哉
談
び
印
度
支
那
音
落
よ

世
風
俗
生
来

廣^{ひろ}の^の架^か。 儒^{にう}教^{きやう}
 我^{わが}邦^{くに} 我^{わが}邦^{くに}
 に行^にま^まれ^れたり^{たり}

弘^{ひろ}く^く教^{きやう}を^をた^たる^るの^の
 政^{せい}律^{りつ} 外^{がい}人^{にん}
 心^{こころ}を^を維^い持^ぢする^る

要用えうよう者もの有あれ

と心動こころうごはる

俗ぞくは所謂いふところ者もの

佛尊ぶつたうと

ありふると

旨哉しうさい張ちやうりる民たみ

を獨依せしむ。

其その教ねを仰あやむ。

輩ともハ大抵たい頑固がんこ

かた

風ふう本ほん天てん然ぜんの

知識ちしきを恃たり。

却りら開ひ化くわを妨さまたぐ。

い。た。さ。て。ま。よ。つ。ま。る。扱。ま。さ。し。

人。氏。平。生。し。

衣。食。保。生。乃。

い。た。さ。て。ま。よ。つ。ま。る。扱。ま。さ。し。

道。も。其。土。地。に。由。る。同。じ。に。赤。道。下。の。地。方。

七
月
作
行
之

ハ開化の進人
りのくこ
よのひらけ

進くしそ耕
たそ

作海獺を務
さく
ぎ
ん
か
と

冬は四時草
ふゆはよじくさ

木は実を食
きはみきをく

ひ裸體のまじ
ひだりたゐのまじ

世
風
俗
生
徒

世よ我が過するるをを
 常た乃の地ちをを果こ
 實じつををけけままばば

急き流りゅうをを以もてて
 念ねんとと心しんをを以もてて
 皮ひをを以もてて衣い類るい
 念ねんとと心しんをを以もてて獸じゅう

水より穴を穿あきるうがち

て山家とあは混まるまるま

帯たいい地ちのち氣き候こう

。おほ

よき大物を豊とと

饒乃國多たくた

自然ぜん昇化しょうのの進しん

世變風俗生來

みま〜農器のうぐいを

業げいと〜器械きがい

を以もつて人力じんりき哉

助たすを漸しぜん々物産ぶつさん

を開ひらき増ましし衣い

食た之たり〜禮らい文ぶん

世變風俗生來

七十度イ...

河まり又また沙さ漠はく多た

きこまま又また六む耕かう作さく

たたれれ以い水すい乃の也や也や

逐お之の牛うしをを牧まか

ふふ越こ業ごうととせせ

夫そ萬ばん國こく政せい體たい

世級風俗生来

二十七

乃區別の様々
なれど是を約
免そ五類とるに

其一は君と
たふそれ八果
代お受け獨

其の
手權柄を執けん びん せ

生殺與奪しやう ころし ぐわん じやく

其意を任その い じんせ

政を議まつりごと ぎす

行ふも一これこそ ひと手て

角上かく じやう

七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

みくろ^ミ無^ム理^リ多^タ一^ト

志^シ一^ト從^ト茶^チ

乃^ノ智^チひよ^ヒて^テ下^カ々^ク

先^シ起^キ了^リ人^ニ有^ル也^{ナリ}

屈^ク服^フ也^{ナリ}其^ノ二^ニ

一^ト其^ノ國^ニ古^クよ^ク

世
段
風
谷
生
来

り如法律哉
すり國夫
権も大抵際

浪ありて何事
も了簡次第
と心ふもあぬ

七
月
屋
作
行
家

志その一その一その政せい

府ふ其その其その君くん王わう

獨ひとり守まも守まも守まも守まも

下しもにに守まも城しろのの得とく

決けつをを義ぎ事こと

成なりららびびままるる其その

世
根
風
谷
生
来

三よハ一古國舊そのくに

家閥閥累代がら

交ろく政權かま

まりのい

如皇一定君おの

とまあ一然もしん

貴族一政をたつと

世風俗注

私ひ有いしう平へい氏しん

をを屈くつ伏ふくささるるれ

害がい弊へいをを一いっ若じやく

專せん權けんとと同どう日じつの

福ふくをを有ありい上じやう

三さん種しゆ乃の政せい體たい

世風俗注

は開化くわいの疎そま

國々くには存ぞんたり

また其その四よも

國君こく臣下しんを
御ぎよを以もつて權けんあれ
公明こうめい正大せいだい

万国普通の
國憲を以て
平民たすとも

その
主權を以て
國を以て
主權を以て
乃

程子は勝つる
と能くは故
一事偏頗
去

し歐羅巴
并化れ玉々
是以用し

た東とこれ五
は一定乃君
長哉設けび

富豪族平民を
備せし人理
あふす徳の人

其公撰一年
限を定めて大
統領ときよひ衆

民も元より其
國政より存興を
亞米利加合衆

世界歴史

國是 こく 是 あ り 是 こ 是 こ 是 こ

最 もつと 多 た ら ず 政 せい 体 たい

たふやけ

と 一 い 笑 わら し

木 き の 一 い 体 たい の 如 ごと
ま ま した 今 いま を 距 とほ
る る 一 い 二 に 百 ひゃく 集 あつ

世界風俗生来

世風俗生

前乃次より英
吉利佛郎西
日耳曼あとの

有識大名家の
創めろ論叢
まをるやまよしと

世風俗生

久下之議くさのぎ

院を設け君いんをたてきみ

至重官平氏しじゆうくわんへいじん

少も是哉討すくもこれがた

福一茶民入ふくいちぢあみいり

粟一々其物取あはだいちいちそのものとり

此総て一人
を奉ぐ但行法
ハ天長一人是を

決議一司法
古ハ詔を聴き
獄或罰ト其の

一手に獨し。

守智也其私

意を施さる

を得以是自

然乃理よ本つ

ま造死の玉

とほやけ

ふもと 綱子まらるん
のちより 夫國々
乃心井きこと 心

あき寺 何れを 彼
の野ら 密心
たらぎれ 水

支那も古くは有
また古くは有
名も賢人續

まゝおそく文學
枝葉も最も早
く開けたれど

世風俗生

潮々人寸表
其一向古
及むぬえれとの

人ありひ定
時運進め
人知る程

世風俗生

唯もて天程ま

たのむをたふせばら

蓬をとりてたらし新あら

を飾んとてしや頑とん

陋何ぞかたろあかた

舊木の門地ふ

我漢里士族
官祿を世襲
しそこの國より

外を以て
夷狄と唱へ
自負を以て

やまはば一途に
古風よ流し
冬用乃虚飾

のふつと上
下乃情ハ目又
隔ふ政情乃

親切を以て

より自強の國

力も無弱せり

若し暴君一
た死を以て全
國を憐れむ

世風俗生撰

蒙かみりう翹うると交まを
くつ終ひまたく國こを
滅めつをめ如に非ひああの

海うみ過あ—

皇み主ま國こハは中ちゆう古こよ
りら支し那な学がく子しをを

用ひ来法を
御一新の法
州開化の政體

を禁して時
を重りて法を
し新利乃

政 成 施 一 終 一
 王 不 可 氣 運 一
 一 遂 一 士 氏 童

勿 之 村 上 里 略
 五 大 物 此 風
 一 一 辨 一 真

長^{ちやう}く^くに及^ねんで

情^{ひんげ}く^く歴^{れき}史^しに就^つ

て^て情^{せい}を^を考^{こう}へ^へて^ての

こころあつとれとらふこと

途^{あち}を^を考^{かん}へ^へて^ての

経^{けい}を^をの^の道^{みち}を^を講^{かう}

し^し上^{じやう}の^の邦^{はう}家^かの^の

為^たる^りに^の身^みを^を費^つす

下^{しも}の^の自^じ己^この

為^たる^りに^の其^{その}産^{さん}錢^{せん}

保^たり^の天^{てん}理^り

主^{しゅ}の^の當^{たう}に^の業^{ごう}を^を

百^{ひゃく}鍊^{れん}

中西正衡之序

とき田去り布名

西洋画引節用集

初編出版
二編三編
續而出来

此書の平生所用の事、物を集め、洋字を記し、
其音と字を附し、兒童をして曉り、
一め、一、圖画を設く、加之早見出の、
十七文字、其初、
石家の類を、
を、
一、旗の、
Stone
House
Flag

七
 をいふに余の... 然るに... 知るべし... 然るに... 洋語を
 知ること此本に勝るものあり且ち極く奇
 悪なる書にんば其を産するは遠く極好あり

通俗英吉利會話篇

第一篇既刻
 次 篇追刻

此書の英吉利會話の尤も精密なる者あり其の暖々申
 するを日と出生の挨拶より商賣或ハ別離見送るまで
 其の初めは後いふ一編より終る其の和語を掲げ下す日
 かなを加之の綜覧より至るは語と語の百一二を以て反り教
 けて師を求めたりて獨り彼國人と會話を極く至極用便の書



東京

須原屋茂兵衛

岡田屋嘉七

山城屋佐兵衛

紀伊國屋源兵衛

若林喜兵衛

西京 境 屋仁兵衛

大坂

秋田屋市兵衛

心齋橋通壹丁目

三府

發兌

書肆

